



東地申第3号「駅派出検査体制等の見直しについて」

に関する申し入れ(東京総合車両センター品川派出所)

団体交渉を実施！①

1. 品川派出所の体制を見直し、本所業務と融合を行う目的を具体的に示すこと。

会社回答：駅派出検査については、車両不具合への迅速な対応により、安全・安定輸送を支える役割を担ってきたところであるが、取り巻く環境を踏まえ、これまでの対応レベルを維持しつつ、社員の活躍のフィールド等を拡大するため、駅派出検査体制等の見直しを実施するものである。

(組)首都圏本部において品川派出が果たしている役割は？

(会)他の派出検査と基本的には変わりはない。

(組)特殊な業務はあるのか？

(会)目立った特徴はないが、**座面の汚損対応が他の派出検査に比べて対応が多い。**

(組)品川派出の対応線区の特徴は？

(会)常磐線が上位を占める。

(組)都心部の派出にしてはかなり座面交換の対応が多い認識はあるか？

(会)地方に比べれば多いと認識している。

(組)**体制変更後も教育面も含めて座面交換の対応ができるようにすること。**

(会)体制が変わっても品川派出が担う役割は変わらない。【確認】

(組)フレックスタイム制導入は、品川派出の視点から見るとどのような変化になるのか？

(会)東京総合車両センターの計画科の方で、計画科の業務と派出検査を担っていただく。

(組)今回の施策は、東京総合車両センターの計画科側の領域が広がり、フレックスタイム制の導入によって勤務体系も柔軟になるという施策でよいか。

(会)派出検査を担っていただいている方が、計画科の業務を担うことでフィールドが広がると考えている。【確認】

(組)今回、何故、コアタイムフレックス制を導入できたのか？

(会)今まで社員がいた時間に誰もいない事が無い様に整理ができればフレックス制を導入出来る。ブラックタイムが日中に生まれてしまうとフレックス制は導入出来ない。

(組)何故、品川にしたのか？

(会)不測の事態に備えて、大井町に一番近い品川を選定した。

(組)今回融合が図られるのは**技術科と企画科**、今後、**設備科、総務科**に拡大していくのか。

(会)全ての計画科、その先には全ての科と考えている。

(組)新たに体制変更後の品川派出はどの科になるのか。

(会)体制変更後、品川派出は技術科の配下になる。【確認】

2. 品川派出所の対応力維持と技術継承の為、現在品川派出所に勤務している社員については、本人が希望する場合は計画科社員として引き続き品川派出所の業務に従事させること。

会社回答：社員の運用については、就業規則に則り取り扱うこととなる。